

**県福祉作文コンクール表彰式開催！
応募総数は一万四千九百九十九篇**

県社会福祉協議会・県共同募金会主催、神奈川県、県・市町村教育委員会、NHK横浜放送局、神奈川県新聞社、テレビ神奈川、市町村ともしび運動推進組織の後援で実施しました「第二十七回神奈川県福祉作文コンクール」の入選作品が決定し、去る一月十七日に県社会福祉会館で表彰式がおこなわれました。

対象は、県内の小・中学生で、ことしの応募総数は一万四千九百九十九篇。地区審査会を経て、県審査会による最終審査で、優秀賞八篇、準優秀賞・佳作十篇ずつの合計五十六作品が選ばれました。

今回は、助けあう心や思いやりをテーマにした作品が多く見られましたが、どの作品も生きていくことの幸せを真剣に考えたものばかりでした。

全応募作品を代表して、優秀賞の中から、小学校五年生の作文を紹介します。

(県共同募金会)

◆県共同募金会 ☎045-312-6339



表彰式の様子



優秀賞

神奈川県社会福祉協議会会長賞

私の妹

藤沢市立本町小学校

五年 中林 咲織

私には障害のある妹がいます。人とのコミュニケーションと、話すことが苦手です。

私は妹が大好きです。とてもかわいいです。お母さんから、親ばかではなく、姉ばかだねと、いわれます。一才しか年がかわらないのにそう思えるのは、こういう子だからかな、とお母さんにきいたら、そうかもしれないね、と、いつていました。いっしょけんめいお話をしてくれたら、名前をよんでくれたりすると、とてもうれしくなります。おんぶと、言って小さい子のよりに、あまえてきます。けんかもほとんどしません。でも、いいことばかりではありません。

妹は大きな声をだすことがあります。そうするとみんなは、いっせいに妹の方をふりむきます。そんな時、私はすぐいやな気持ちになります。わがままだなあ、うるさいなあ、と思ってしまうかもしれない。でも、そうではなく、自分の気持ちをうまく伝えられなかったり、話が理解できなかつた時、そうなってしまうのです。このことをみんながわかってくれたらいいと思います。

この間、妹のピアノの発表会がありました。音符も読めなかったのに、ピアノをひき、言葉もあまりうまく話せないのに、はつきりとした言葉で手話をしながら、歌っているのを見て、私は本当にびっくりしました。

みんなの前で、にこにこしながら、楽しそうにぶたいたっていました。妹に何かをおしえることは、とてもたいへんです。でも、ゆっくり、少しずつ、先生がおしえてくれました。いろいろなことを、こんなふうにおしえてくれる人がふえたらいいと思います。そうしたら、もっとできることがふえると思うからです。

みただけでは、障害があるとわからない人もいます。そういう人たちもいるということを知ってほしいと思います。

私は妹が大好きです。妹とずっとずっと仲良しでいたいです。